

令和元年度天皇杯受賞者受賞理由概要
水産部門

持続可能で高品質なマガキの養殖生産

○氏名又は名称 宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所カキ部会
(代表 後藤 清広)

○所在地 宮城県本吉郡南三陸町

○出品財 技術・ほ場(資源管理・資源増殖)

○受賞理由

・地域の概要

宮城県南三陸町は、眼前に太平洋に口を開く形の志津川湾が広がっている。湾内には、多種多様な魚族や海藻が生息していることから、漁業にとって大変優れた地域で、カキやワカメ、ギンザケなどの養殖業も盛んに行われている。また、採介藻漁業などと併せて豊かな海が漁業者の暮らしを支えている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

戸倉出張所カキ部会は昭和30年に発足し、東日本大震災前は、78経営体が参加していたが、平成29年現在は、34経営体に減少している。同カキ部会では、生産技術の向上や品質の改善、販売促進などの方策を活発に話し合われている。

・受賞者の特色

(1) 過密養殖からの脱却の取組と経営改善の効果

東日本大震災を契機に過密養殖の状態であったカキの養殖体制から脱却するため、同部会で年間100回にも及ぶ話し合いを重ね、養殖施設(筏)の間隔を広くすることとした。養殖施設の筏の間隔を広くし、台数を削減した結果、養殖期間の劇的な短縮と品質の向上に繋がり、1経営体当たりの年間の生産量及び生産金額が向上した。

また、養殖施設の台数削減によって、経費の低減及び労働時間の短縮が図られ、養殖カキのより丁寧な管理が可能となった。これらの取組みにより、都市部に移住していた子弟がUターンしてくるなど、後継者の確保にも繋がった。

(2) 持続可能な養殖業の追及に向けた取組

同部会では、養殖の国際的エコラベルであるASC認証の取得に向けてチャレンジし、環境負荷の低下や持続可能な養殖業の姿を明確に示すことにより、平成28年に日本で初めて認証された。

・普及性と今後の発展方向

養殖施設の見直しというリスク要因を乗り越え、経営改善と後継者確保に繋げた成果は、これからの持続可能な養殖業の姿を指し示す羅針盤になり得るものである。同様の困難な状況にある地域に多くの示唆をもたらすモデルとなる取り組みである。